

登録記念物への登録

《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 3件

1 ^{そね していえん じ そうあんていえん}曾根氏庭園（磁叟庵庭園）【岐阜県瑞浪市】

製陶業者の邸宅に造られた庭園で、岐阜県の南部を流れる猿爪川^{ましづめがわ}沿いに形成された小盆地の西端に位置する。大正末期に邸宅が新築された後に庭園の造営が始まり、昭和2年（1927）に完成した。作庭は名古屋の庭師の手によるものと伝わる。

曾根氏の邸宅は、敷地の中央に主屋、その南側に離れ、北側に蔵を配置し、庭園は主屋の南側から西側に広がる主庭のほか、離れの南側や玄関前等、複数の空間から成る。

主庭は、主屋の座敷の南側と西側に面し、主屋から南を望むと右手奥に築山^{つきやま}が見える。築山からは手前に向かって枯流れ^{かれなが}が造られ、そこに石橋が架かる。庭内には花崗岩の飛石^{とびいし}が縦横に打たれ、それらは庭門、主屋、離れ等を結ぶ。飛石の分岐点には大ぶりの踏分石を配置し、また随所に花崗岩の景石を据える。

製陶業者の邸宅に造られた近代庭園である曾根氏庭園（磁叟庵庭園）は、岐阜県の造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

2 ^{まにさん}摩尼山【鳥取県鳥取市】

鳥取県東部に位置する喜見山^{きけんざん}摩尼寺^{まにじ}の境内を成す摩尼山（標高357m）は、大山^{だいせん}や三徳山^{みとくさん}と並ぶ天台宗の拠点^{いなば}的靈山で、古くから、因幡に住む民が死後に彼岸に旅立つ際に一旦靈魂が滞留する場所として信仰を集めてきた。旧参道と歴代住職等墓所、山腹の境内地に建立された堂宇群、自然環境などから成る風致景観が良好に保全されている。特に巨巖・岩窟等から成る奥の院の奇景に優れ、日本海・鳥取砂丘等を一望する鷲が峰^{きょがん}（立岩^{わし みね たていわ}）はこの地域を代表する展望地点として長く親しまれてきたもので、山内に点在する多くの石仏群も独特の風致を添え、自然の名勝地として意義深い事例である。

3 ^{きゅうな か そね していえん}旧仲宗根氏庭園【沖縄県宮古島市】

沖縄県宮古島の旧士族の邸宅に昭和初期に造られた庭園で、宮古島北西部の平良地区に位置する。仲宗根氏は多くの宮古島の頭職を輩出した家柄で、地元で「忠導氏^{ちゅうどうじ}仲宗根家」と呼ばれる。

旧仲宗根氏庭園の敷地入口に建つ門には琉球石灰岩の巨石が用いられ、門から続く通路を右手方向へ進むと庭園へ通じる。庭園は主屋の東側に位置していたが、主屋は近年の台風により倒壊し、現在は存在しない。作庭は、昭和4年（1929）に主屋が改築された際に、首里の庭師糸洲朝昌^{いとす ちようしょう}が行った。

庭園は元々主屋からの眺めを主とする池庭で、主屋から見て左右に園池が伸びる。園池は複雑な形をしており、5つの岩島を配している。園池の左奥方向には滝石組が設けられ、また左右の端には石の反橋が架かる。左の反橋からは、滝石組の背後の築山の上部へ向かって石段が続く。

以上のように、旧仲宗根氏庭園は、宮古島に残る唯一の旧士族の庭園であり、沖縄県の造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。